

2016 年度（平成 28 年度）

自己評価報告書

2017 年（平成 29 年）9 月 5 日

学校法人 東杜学園
国際マルチビジネス専門学校

目 次

1. 学校の現況	3
2. 評価の基本方針	6
3. 重点目標	7
4. 項目毎の記述	
(1) 教育理念・目標	9
(2) 学校運営	10
(3) 教育活動	11
(4) 学修成果	13
(5) 学生支援	14
(6) 教育環境	15
(7) 学生の受入れ募集	16
(8) 財務	17
(9) 法令等の遵守	18
(10) 社会貢献・地域貢献	19
(11) 国際交流	20

1. 学校の現況

(1) 設置者及び学校名

設置者	学校法人 東杜学園
学校名	国際マルチビジネス専門学校
代表者	理事長 野口 友子

(2) 所在地

〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央 4 丁目 8 番 32 号

(3) 沿革

1949 年 6 月	「宮城県経理友の会」会長 野口一郎（仙台商工会議所内に設置）
1951 年 4 月	東北経理実務学校創立 開校（設置者 野口会計受託株式会社） 「校章」「校訓～五常訓（健康・誠実・節約・信義・研鑽）」制定
1953 年 2 月	（学校設置者変更認可）財団法人 東北経理実務学園
1956 年 9 月	創立 5 周年記念式典「校旗」「校歌」制定
1961 年 4 月	創立 10 周年記念式典
1963 年 7 月	（学校法人変更認可）学校法人 東北経理実務学園
1971 年 9 月	創立 20 周年記念式典
1973 年 10 月	（校名変更認可）東北経理専門学校

- 1976年 3月 学校法人 東北経理学園 専修学校制度施行・昇格認可
- 1981年 10月 創立 30 周年記念式典
- 1991年 10月 創立 40 周年記念式典
- 1994年 3月 (校名変更認可) 東北情報経理専門学校
- 1997年 3月 新校舎落成
- 1997年 4月 (法人名・校名変更認可) 学校法人 東杜学園
国際マルチビジネス専門学校 開校

現在に至る

(4) 学科編成

①商業実務専門課程 昼間部 2年制

- ・ 国際観光学科
 - トラベル専攻
 - ユニバーサルツーリズム専攻
 - トラベル外国語専攻
- ・ 国際ホテル学科
 - ホテル専攻
 - 料飲サービス専攻
 - ホテル外国語専攻
- ・ ブライダルビジネス学科
 - ブライダル専攻
 - ブライダルスタイリスト専攻 (2016年度より名称変更)
 - 海外ウェディング専攻 (2016年度より新設)
- ・ 販売ビジネス学科
 - 販売ビジネス専攻
 - ファッションビジネス専攻
 - ビジネス外国語専攻

②商業実務専門課程 昼間部 1年制

- ・ 国際観光学科 トラベルキャリア専攻
- ・ 国際ホテル学科 ホテルキャリア専攻
- ・ ブライダルビジネス学科 ブライダルキャリア専攻
- ・ 販売ビジネス学科 ビジネスキャリア専攻

(5) 学生数及び教職員数

在校生数	162名 (2016年4月1日現在)
教職員数	82名 (2016年4月1日現在)

(6) 学園理念

多様な価値観を理解し、多数の情報源を有する機動力と行動力を持った人材を育成し、国際・地域社会に貢献できる有益な人材を育成する

2. 評価の基本方針

- (1) 実践的な職業教育を行う教育機関としての責務、及び関係業界等のニーズに迅速且つ的確に対応し得る波及力、以上2つの視点について客観的な検証と評価を行う。

- (2) 評価については、定性的かつ定量的なデータを基に信頼性と妥当性のある結果の確保に努めるとともに、学園理念及び教育基本方針との照合を実施し、より質の高い職業教育が可能となるよう、学校運営の組織的かつ継続的な改善を図る。

- (3) 客観的且つ多面的な自己評価を実施することで、学校運営の更なる改善に努めることはもちろんのこと、実践的な職業教育の水準向上に努め、地域社会及び国際社会で活躍できる人材の育成を目指す。

3. 重点目標

(1) 重点項目

職業人前教育を担う教育機関としての専門学校的位置付け及び特色を意識し、時代を問わず社会より普遍的に求められる「専門性」・「社会性」・「人間性」の育成を目指す。

上記を達成する上で、以下4点の支柱を明示する。

- ①学生の積極的な学修参加
- ②退学の防止
- ③就職率ならびに進路決定率の維持と向上
- ④外国語教育の拡充と留学生の受入れ体制の確立

(2) 取組状況・成果

①学生の積極的な学習参加

設置4学科全てにおいて、立案から実施までの全ての工程を学生が担当する実習制度を導入している。社会人として必要とされる「課題発見能力」及び「課題解決能力」の育成を主眼とするのみならず、課題遂行上不可欠となる「コミュニケーション能力」の向上など、「社会性」を学修する場ともなっている。

②退学の防止

オープンキャンパス等において、専門学校の特長、教育理念、就職実績、そして学生納付金等について、細部に渡る説明を実施し、入学前のミスマッチの防止に努めている。

また、担任制の導入により、入学後に定期的な個人面談を実施。さらに、定期的な出欠率の確認と指導を徹底することで、学生の個別性の把握に努めている。

一方で、進路変更等が生じた場合は、休学及び転科を視野に入れた指導を実践することで、退学の防止に努めている。

③就職率ならびに進路決定率の維持と向上

求人数の増加、早期からのキャリア教育、そして就職部職員ならびに各担任のきめ細かな指導が功を奏し、2016年度卒業生の就職率においても前年同様100%となった。

年々変化する時代のニーズに応えるべく、教育水準の維持と向上を目指しながら、関連業界へ良質の労働力を提供し続けることを今後も目標とする。

④外国語教育の拡充と留学生の受入れ体制の確立

年々深刻さを増す18歳人口の減少に加えて特出すべき事項の1つに、外国人留学生の増加がある。また、「語学力」を採用の絶対条件とする企業が増え続けている。社会に求められる人材の育成を担う教育機関として、外国語教育の拡充と外国人留学生の受入れ体制の確立は、より一層重要度を増している。

2016年度より外国人留学生の受入れを開始し、2017年度から「総合英語学科」及び「日本語ビジネス学科」を新設する。

(3) 今後の課題

①人間教育の更なる充実

日々刻々と変化する社会情勢の中で、若年者を取り巻く環境は大きな変化を遂げている。学習環境はもちろんのこと、他者との結びつきや家族関係においても、世代間で大きな違いが存在する。

しかしながら、いつの時代も求められる資質の1つに、「コミュニケーション能力」があげられる。自己表現力や傾聴力等の基礎的な能力はもちろんのこと、「ホスピタリティ精神」、そして躰に代表される「社会人としてのマナー」、これら2つの要素を習得でき得る人間教育の更なる充実は、今後も大きな課題となる。

②外国人留学生の学修及び生活指導のシステム構築

外国人留学生の受入れ及び教育にとって、「多言語化」、「日本語力」、そして「外部との連携」は重要な項目といえる。入学案内書やホームページの多言語化、日本語力向上のためのカリキュラム、そして日本語学校等との連携等が、今後も取り組むべき課題である。

4. 項目毎の記述

(1) 教育理念・目標

評 価 項 目	自己点検 評価結果
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
学校における職業教育の特色は何か	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	4

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①課題

本学園にて、従来から重視されてきた「専門性」、「社会性」、及び「人間性」の3大要素に加えて、本年度より新たに「国際性」を意識した指導を行っている。「国際性」とは、特に「語学力」を意味しており、近年首都圏の人事担当者を中心に数多く寄せられたご要望に対応し得る体制が強化されている。さらには、本年度より中国人留学生の受け入れ、そして次年度からは「総合英語学科」及び「日本語ビジネス学科（留学生クラス）」の新設を控えており、より国際的な視点における教育活動が展開されると予想される。

学生に対する教育理念及び育成人材像の周知については、入学前のオープンキャンパスから入学後のオリエンテーションに至るまで、例年通り実施されている。保護者に対しても、オープンキャンパスならびに入学後年1回実施する保護者会にて周知されており、今後もこの形式は継続して実施される。

今後は、時代の流れに影響を受けて変化する学生の本質に対して、理念及び目標を柔軟かつ的確に多様化することが、今後の課題として挙げられる。

②今後の改善方策

若年者の価値観が年々変化する状況下において、教育理念及び目標は都度変化が求められる。「職業人教育」はもちろんのこと、「人間教育」をより重要視した対策が望まれる。

(2) 学校運営

評 価 項 目	自己点検 評価結果
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	4
人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①課題

「学校法人東杜学園寄附行為」に基づき、本学園では理事会ならびに評議員会を開催し、学園運営を行っている。経営方針や事業計画は、評議員会に諮問、そして理事会で承認決定の上、運営方針を決定している。就業規則他諸規程については、適宜整備及び改定がなされ、学園全体で更なる向上を図っている。

一方、学生の入学、在籍、そして卒業までの学生情報管理については、その最適化と効率化を図るため、システムを導入している。しかしながら、学生情報の更なる多様化が見受けられるため、学生情報管理には今後も課題が残る。

②今後の改善方策

今年度より受け入れを開始した留学生、そして次年度新設する「総合英語学科」及び「日本語ビジネス学科」など、学生情報は拡がりを見せている。また、1年課程の需要が伸びていることもあり、今後多様化する学生情報の管理には、より一層業務の効率化及び最適化が求められる。

(3) 教育活動

評 価 項 目	自己点検 評価結果
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①課題

専修学校設置基準に則った教育課程の編成と授業時間の確保を前提として、毎年実施されている学科編成及び半期毎のカリキュラムの見直し等、業界のニーズや在校生の学習状況に合わせた確な対応が、今年度も継続して実施されている。また、2015年度設置の「教育課程編成委員会」を通して、企業委員からの提言を取り入れ、「業界が求める知識や技術の習得」を目標に、カリキュラムの作成と見直しを進めている。

授業評価については、年1回の実施を本年度も継続した。10項目で構成される質問紙と自由記述により、定量的かつ定性的なデータを収集し、各担当者へフィードバックを実施した。

資格取得等の指導体制については、通常授業のみならず、授業時間外の個別指導や長期休暇中の特別講座など、万全の態勢を整えている。

教職員及び講師については、年1回実施される講師会にて、本校の教育理念ならびに育成人材像が周知されているため、教科指導のみならず生活指導にも注力している。

しかしながら、関連分野の企業との連携、そして職員の能力開発を目的とした定期的な研修の実施の2点については、今年度も課題が残る。関連分野の企業との連携については、学科間で差が生じており、足並みを揃えた定期的な実施が求められる。職員の能力開発を目的とした研修については、不定期では存在するものの、計画的な実施はなされていない。

②今後の改善方策

2015年度に発足した「教育課程編成委員会」を通して、企業委員からの提言を基に、より実践的なカリキュラムの作成及び見直しを進めている。今年度は、企業委員に通常授業を見学していただき、現場で求められる「ヒューマンスキル」について、再考する機会を得ることができた。次年度以降、ヒューマンスキルの習得を目的としたカリキュラムの拡充を図ることはもちろんのこと、専門的な知識や技術の習得とリンクしたより実践的な指導が可能となるよう、関連企業との関わりを強化することが求められる。

職員の能力開発を目的とした研修については、前年度に比べて機会は増えたものの、不定期での実施は否めない。専修学校各種学校連合会主催の研修及びセミナー、そして各学科特有の能力開発を目的とした研修会等、積極的かつ計画的な実施を目指すことが求められる。

(4) 学修成果

評価項目	自己点検 評価結果
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①課題

2016年度の求人数は、数年振りに前年度を下回る結果となった。この背景には、関連業界以外の求人の減少が挙げられる。その中で、個性性を重視したきめ細やかな対応は、今年度も継続して実践され、就職率は100%に達する結果となった。

資格取得については、昨年度同様、授業はもちろんのこと、授業時間外での施設の開放、個別指導、そして土日祝日実施の講座等、取得率の向上に努めている。

しかしながら、学生の「モチベーション」の問題が随所に影響を及ぼしている現状は、軽視できない。資格取得率の停滞、そして一定数の退学者の存在等、そこには学生のモチベーションの維持及び向上の問題が潜んでいる。入学後の指導等、本学園だけでは対応しかねる問題が存在することは、注視すべき点であるといえる。

また、依然として卒業生の追跡調査については、具体的な打開策に辿りついていないのが現状である。

②今後の改善方策

金銭面での問題により、止むを得ず自主退学する学生が増加傾向にあった昨今、新たな問題として浮上したのが「モチベーション」の問題である。入学後数ヶ月でミスマッチを理由に退学する学生、そして在籍学科とは別分野に就職する学生等、いずれの場合にも大きく影響を及ぼしていることが示唆される。入学前後でのイメージの乖離を防ぐため、効果的なサポートを模索すること、そして学生と保護者間の対話をより一層強化すること等が望まれる。

卒業生の追跡調査については、SNSを利用するなど、システム化に向けて中長期的な計画を立てる必要がある。

(5) 学生支援

評価項目	自己点検 評価結果
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生の支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①課題

少人数制、担任制、及びカウンセラーの常駐など、学生支援は引き続き十分な体制が整えられている。今年度は、新たに副担任制度を導入する等、多岐に渡る学生指導を展開している。

本校独自の奨学金制度、学費減免、そして分割納入制度といった経済的な支援体制については、近年増加する自力進学者等、経済的に修業困難な学生を対象に継続して実施している。

また、年1回の健康診断による健康管理、そしてCEP等の課外活動に対する支援体制についても、従来通りきめ細やかな対応がなされている。

保護者との連携についても、年1回の保護者会の他、個別での対応も実施することにより、学生、学校、そして保護者の三位一体の連携体制の強化は、今後も継続して進める。

しかしながら、高校・高等専修学校等との連携については、以前定期的な開催に至っていない。

②今後の改善方策

高等学校等から要望がある場合、受入れ体制は常に整っているものの、定期的な連携ではない。今後も引き続きニーズを探り、キャリア教育の一助となるべく対応を検討する必要がある。

(6) 教育環境

評価項目	自己点検 評価結果
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災に対する体制は整備されているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①課題

国際観光学科の実習施設であるトラベルカウンター実習室のリニューアル、そして館内空調施設の総入れ替え等、施設・設備については中期計画に基づき、確実な管理を行っている。

1年次海外学科別研修旅行については、今年度も同様にグアムで実施した。ブライダルビジネス学科海外ウェディング専攻では、ワタベウェディング協力の元、海外インターンシップを実施した。

また、CEPによる実務体験、そして夏期及び冬期休暇を利用した短期間のインターンシップ等、今年度も就業体験については十分な体制が整えられている。

一方、防災訓練計画については、各学年学科単位での周知は実施できたものの、一律での実施に至っていないのが現状である。

②今後の改善方策

今年度より新設されたブライダルビジネス学科海外ウェディング専攻を皮切りに、次年度新設予定の総合英語学科では、国際性を意識した教育環境の開拓を目的として、半年間の海外留学を予定している。今後は、より一層関連企業との連携が不可欠となる。学内での慎重な審議を以て、充実した海外研修になるよう努めていきたい。

防災体制については、見直しを図りつつ、定期的な実施を検討する必要がある。そのためには、入学オリエンテーション時、そして各学年学科単位での周知のみならず、全体での防災訓練を計画する必要がある。また、防災危機管理者の複数の配置、そして防災備品の整備等、学園全体としての意識向上についても、引き続き努めていくことが望まれる。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	自己点検 評価結果
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①課題

本学園の基本情報、資格取得実績、及び就職状況については、本年度も引き続き適正かつ誠実に行われている。本年度はさらに、留学生対象の学外ガイダンスへ積極的に参加した。AO入試については、学生の個別性及び自主性を重視する観点から、本年度も実施していない。

授業料をはじめとする学納金は、教育内容や地域水準を踏まえ、妥当な金額である。

また、「国際性」を意識した教育目標を踏まえ、来年度より「総合英語学科」、留学生に特化した「日本語ビジネス学科」を新設する。今後もより一層情報収集に努めるとともに、受入れ体制の強化に努めたい。

②今後の改善方策

学生の受入れ募集については、本年度も適正に行われている。SNSを駆使する等、昨今の学生事情に合わせた手段で実施されている。

しかしながら、学生の進学先決定について、ここ最近では高等学校等との結びつきが、依然にも増して、その重要性が指摘されるようになった。適正かつ誠実な情報公開はもちろんのこと、今後は高等学校等との連携を強化し、社会のニーズに対応した受入れ体制を常に模索することが、今後の課題として挙げられる。

(8) 財務

評価項目	自己点検 評価結果
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①課題

学校運営に関わる予算については、年に2回実施される評議員会の諮問及び報告を経て、年度予算等の財務状況を確認し、理事会の承認を得て決定している。

2013年度には、学校法人会計基準の大幅な改正が行われた。知事所轄学校法人である本学園では、本年度より会計処理及び計算書類の作成に適用されている。

学校財務情報については、資金収支計算書、消費収支計算書、そして賃借対照表をホームページ上に公開している。今年度からは、前述した会計基準改正内容を受け、資金収支計算書、事業活動収支計算書、及び賃借対照表に情報公開の内容を変更する。収入予算の細かな予測、そして支出の状況把握を行い、安定した財務基盤の維持に努めている。

今後の課題としては、昨年度から引き続き少子化に伴う収入基盤の確保が挙げられる。

②今後の改善方策

社会のニーズに合わせた学生募集、退学防止、そして留学生の受入れ体制の確立等、安定した収入基盤確保のための具体的な方策は、今年度も継続して必要とされる。

(9) 法令等の遵守

評 価 項 目	自己点検 評価結果
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①課題

本学園では、年度手続毎に法令及び専修学校設置基準を遵守し、適正な学校運営を行っている。個人情報については、個人情報保護規程を整備し、職員へ就業規則と共に周知し、適切な運用を行っている。また、マイナンバーについては、管理責任者を定め、着任及び退職時に適切な取り扱いを実践している。

入学案内書等に掲載する際の在校生及び卒業生の個人情報の取り扱いについては、趣旨を説明の上、承諾書を受け取り、適正な処理が施されている。

自己評価については、2015年度に自己評価委員会を設置し、本学園のホームページに結果を掲載している。今後も、各項目の改善点について対策を進めることが求められる。

②今後の改善方策

2015年度に設置された学校関係者評価委員会より評価をいただき、学校運営にあたっての情報公開と改善について、継続的に取り組むものとする。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	自己点検 評価結果
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①課題

キャリア教育の観点から、小・中学校より学校見学や体験授業の依頼が、近年増加傾向にある。また、高等学校においては、本学園講師を派遣した特別講座の依頼が増えており、可能な限り対応している。

一方、各種検定試験や国家試験については、受験会場として引き続き教室の貸出を行っている。ボランティア活動については、献血や地域清掃等、今年度も継続して実施する中で、震災復興イベントへの参加も推奨している。

地域に対する公開講座や教育訓練の受託等については、本年度も実施がない。

②今後の改善方策

職業教育としての専門学校のみならず、地域社会に向けた広義での教育機関として、その位置付けを再度検討することが求められる。知識と技術を地域社会へ還元する公開講座や、本校設置の各学科による地域貢献といったように、専門学校としての位置付けを柔軟に捉えていくことが今後の改善策と考えられる。

(11) 国際交流

評価項目	自己点検 評価結果
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3
留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3
学修成果が国内外で評価される取組を行っているか	3

※自己点検評価結果尺度 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

①課題

本年度より留学生の受け入れを開始し、来年度から留学生に特化した「日本語ビジネス学科」を新設する。日本語教師の資格を保持した専任教員を採用し、受入れ体制の整備を計画している。また、仙台入国管理局の指導のもと、出願資格の決定や関連業界との連携等、細部に渡り準備が進められている。

国内外での学修成果の評価については、ブライダルビジネス学科海外ウェディング専攻の海外インターンシップが挙げられる。また、2017年度に新設予定の総合英語学科では、アメリカ、イギリス、オーストラリア、そしてカナダのいずれかを選択し、4ヶ月間に及ぶ語学研修が予定されている。

国際交流という観点における本学園の今後の取り組みとして、多様化が予想される留学生の国民性や宗教等に対応し得る異文化理解、そして既存学科の教育目標でもある「国際性」が活かされる体制の確立が挙げられる。

②今後の改善方策

留学生に対して、柔軟かつ適切な受入れを可能にするため、総合的なカリキュラムの確立、専任教員の確保及び拡充、そして就業先の確保等が求められる。特に、専任教員の拡充については、留学生の習熟状況はもちろんのこと、日本文化の多角的な理解についても重要視される。